

2021年10月19日

各 位

会社名 株式会社東京機械製作所
代表者名 代表取締役社長 都並 清史
問合せ先 総務部長 中野 実
(TEL : 03-3451-8591)

2021年10月18日付けアジア開発キャピタル株式会社の
「株式会社東京機械製作所との面談記録（音声）の公開に関するお知らせ」について

2021年10月18日付けで、アジア開発キャピタル株式会社（以下「ADC」といいます。）が「株式会社東京機械製作所との面談記録（音声）の公開に関するお知らせ」を公表しております。

ADCは2021年8月27日に実施した面談の録音データを、当社の了解もなく一方的に動画共有サイトにアップロードした上で、当社が同面談の内容を、意図的、部分的、変則的に切り取り、負のイメージを強調しているなどと主張しておりますが、当社にはそのような認識は全くございません。

むしろ、同面談の出席者について、ADCは、当社の出席者を、ADCのアンセム・ウォン社長の健康面への配慮と新型コロナ対策を理由に3名までとするよう自ら要請した経緯があるにも拘らず、実際にはADC側の当日出席者は7名に及び、しかも、録音データにも記録されているとおり、事前の連絡もなく当社に秘して弁護士2名（内1名はOMM法律事務所 大塚和成弁護士）を同席させようとした点（当社側は弁護士を同道しておりません。）に鑑みると、ADC側に建設的な対話の意思など無かったことは、その行動から明らかです。

また、面談で、ADCのアンセム・ウォン社長は、「御社のことは、株価が250円という割安感だった時から、1年前よりウォッチしておりました」と述べていますが、ADCの完全子会社であるアジアインベストメントファンド株式会社が当社株式の大量買集めを開始した2021年6月9日における当社の株価は、安値でも701円（高値は750円）であって、この株価水準は、その直前の営業日である同年6月7日と翌8日を除くと、2018年の年初以来、最も高い株価水準であって、かかる株価水準の下で当社株式の大量買い上がりを開始したことは、上記のウォン社長の発言とは明らかに矛盾している点や、当社の米本社社長室長が「現在、4割近くを保有されているにもかかわらず、『支配権の取得。ただし、役員を派遣しない。』というのは奇異な感じがしますが、どういうお考えなのか教えてください」と質問にしたのに対して、ウォン社長は、「御社の経営に対しては、我々はその業界の人間ではないので、一切口に出すつもりはありません。また、当社は輪転機の製作面に関しては全く分からないし、投資会社ですので、安く買って高く売却するのが普通ですから」としか答えていない点につき、株主の皆様も是非ご留意頂ければと存じます。

ちなみに、ADCのアンセム・ウォン社長は、メディアへのインタビューで上記面談の雰囲気友好的で

あったことを強調しておられますが、当社側がその時点で当社株式の3分の1以上を買い集めていた筆頭株主に友好的な態度で接するのは社会儀礼上も当然のことと認識しております。

以上のとおり、ADC側の主張は投資家・株主の皆様を理解をミスリードするものであり、客観的な事実と反していると考えております。

以上